

# 平成30年度事業計画総括

放射線技術学は、医学、工学、物理学、数学などの多くの境界領域の学問と融合して発展を続けており、医学、医学物理学や理工学等の幅広い分野での会員の連携による学際化のさらなる推進ならびに新しい放射線技術学の創成を通して社会に貢献する学会となるよう会務運営に努めたい。

総会学術大会の英語化については、平成26年の国際化特別委員会答申に基づいて昨年の第73回総会学術大会ではCyposと発表スライドの100%の英語化を継続し、英語口述発表についても約45%を達成した。引き続き総会学術大会の国際化を進めていく。国際的な学術連携としては、中華医学会影像技術学会（中国）、大韓放射線科学会（韓国）、タイ医学物理学会（タイ）ならびに平成29年度に締結した中華民国医事放射学会（台湾）含めて、継続的な連携・交流を進めて行く。また、平成30年度にスタートする第4回ICRST特別委員会にて、国際的に学術連携している前述の4学会との共催を柱とする第4回ICRSTの開催（平成31年度開催予定）に向けて準備を進める。国家プロジェクトの一環として進めているミャンマー教育支援事業については、現地大学の教員の教育を目的に平成30年12月の実施に向けて準備を進めて行く。

将来構想特別委員会の答申に基づき設置した学会事業評価委員会により引き続き本学会の自己評価を行い、各事業にフィードバックしていく。また、教育プログラムとしてe-learningを引続き充実させ、すべての会員へ還元するとともに、叢書販売管理システムや選挙投票システムの稼働など、会員管理システム（RacNe）の機能充実を図っていく。会員の皆さまの一層のご理解とご支援をお願いする次第である。

以下に、平成30年度事業計画の総括を述べる。

## 1. 学術集会事業；公1

### 1) 学術大会の開催

#### (1) 総会学術大会の開催

第74回総会学術大会を平成30年4月12日（木）～15日（日）の4日間、錦成郎大会長のもと、パシフィコ横浜会議センター他でJRCの運営により第77回日本医学放射線学会総会、第115回日本医学物理学会学術大会ならびに2018国際医用画像総合展との併催で開催する。

また、第75回総会学術大会を石田隆行大会長のもと、平成31年4月の開催（パシフィコ横浜会議センター 他）に向け準備を進める。

#### (2) 秋季学術大会の開催

第46回秋季学術大会を平成30年10月4日（木）～6日（土）の3日間、千田浩一大会長のもと、仙台国際センター（仙台市）においてJRCの共催を得て開催する。

#### (3) セミナー・研修会の開催

教育委員会が主催、専門部会ならびに地方支部が共催で16のセミナー・研修会を延26回開催する。

#### (4) 専門部会プログラムの開催

7つの専門部会が各専門分野に特化した独自の企画で春秋の学術大会にジョイントして専門部会プログラムを開催する。会員の国際化を目的として海外からの講演も積極的に企画していく。

#### (5) 地方支部における学術大会、セミナー等の開催

各地方支部において地域に根ざした支部独自の企画で、春もしくは秋に学術大会ならびにフォーラムやセミナーなどを開催する。また、地方支部と学術委員会、教育委員会、専門部会が協力してセミナー、研修会等を実施して地域における学術活動を活性化させる。

#### (6) 市民公開シンポジウム・市民公開講座等の開催

公益法人としての事業の一環であり、本学会の学術領域を社会に広報する目的で今年度は3回（京都市、仙台市、広島市）開催する。

## 2. 刊行広報事業；公2

### 1) 学会誌関連

学会誌第74巻第1号～第74巻第12号の12冊を毎月20日に定期発刊する。その中で論文特集号（第74巻11号）も組み込む。学術研究発表から論文化への推進を行い投稿論文の増加推進に努める。電子ジャーナルの発行を行う。引き続き、学会雑誌の電子化（冊子体の廃止）について継続して検討する。

## 2) 英語論文誌関連

第11巻1号を平成30年3月20日、第11巻2号を平成30年6月20日、第11巻3号を平成30年9月20日、第11巻4号を平成30年12月20日に電子ジャーナルおよび冊子体を発刊する予定で、会員の積極的な投稿を喚起する。第74回総会学術大会で、日本医学物理学会との合同企画ならびに土井賞、Most Citation Awardの表彰式ならびに土井賞の受賞者講演を開催する。

## 3) 出版活動

放射線医療技術学叢書(27)の英語版の電子出版を行う。また叢書の増刷を行う。また、放射線技術学教育関連図書の発刊ならびに発刊作業を進めるとともに既出版物の販売促進を図る。

## 4) 支部雑誌の発行

各支部において支部雑誌を1回～3回発行する。（電子ジャーナルを含む）

## 5) 部会誌の発行

各部会において部会誌を電子ジャーナルで2回発行する。

## 6) 広報活動

学会事業ならびに放射線技術学に関係する専門分野の研究動向などを、市民公開シンポジウムや市民公開講座などの開催、ホームページへの掲載ならびにメールマガジンの配信を通じてを一般市民含めて学会内外に広報する。

## 3. 研究調査事業；公3

学術研究班（13班）による学術研究を行う。放射線技術学シラバスの改訂及び動画コンテンツを推進してe-Learningの充実ならびに定着化を図る。また、学術大会において専門部会講座入門編と専門部会講座専門編ならびに秋季学術大会において教育的講座を開催する。

## 4. 研究奨励事業；公4

規定に基づき、三賞、学術業績賞、研究奨励賞等の選考・推薦・表彰ならびに関係省庁、関連団体被表彰者の推薦を行う。また、東北支部、関東支部、東京支部、中部支部、中国・四国支部、九州支部において表彰もしくは研究奨励を目的に助成を行う。

## 5. 連携交流事業；公5

### 1) 国内

- (1) 関連学協会および関連団体と積極的な交流を図るとともに共同による企画などの立案を行う。放射線技術に関する関係法令に関して関連省庁や放射線審議会等から情報を収集し、整理して会員等への情報提供ならびに法整備のためのエビデンスとガイドラインを作成する。また、関係省庁、JIRAおよび関連学会と協力してIECと整合をもったJIS化作業を行い、その普及活動を積極的に行う。また、標準化にかかわる規格・コード・ガイドラインなどの協議、策定および普及に努める。放射線防護ならびに医療安全についても関連団体と連携して具体的に取り組んで行くとともに会員等への情報発信をおこなう。
- (2) JRC理事会に役員を派遣し、学術大会の開催企画に参画する。
- (3) 関係省庁、教育機関、関連学協会との一層の連携を図っていく。
- (4) 日本診療放射線技師会と共催にて平成30年度JSRT-JART合同市民公開講座（第12回公開合同学術セミナー）を8月4日に開催する。

### 2) 海外

欧米、東アジア地域における関連学会との国際交流においては、本学会学問領域に近い学術団体と学術交流の締結を積極的に推進する。特に、中華医学会影像技術学会、大韓放射線科学会、タイ医学物理学会、

中華民國医事放射学会との学术交流関係を継続する。また、双方の学会での研究発表を促進し、一般会員相互の交流がさらに発展するよう努力する。また、海外短期留学生の派遣、国際研究集会への派遣等の助成事業を継続して行う。